

平成29年度事業報告

—事業概要—

高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（高年齢者雇用安定法）が改正されました。平成24年改正、平成25年施行。施行後も、著しい少子高齢化社会進展は、労働力の減少となり、労働力の不足を改善させるまでにはいたっておりません。シルバー人材センターも、積極的に請負・委任による自由な就業、シルバー派遣事業や職業紹介事業に取り組んでまいりました。

しかしながら、まったく予期しなかった【九州北部豪雨】大災害に見舞われ、甚大な被害を受けました。7、8月からの受注減。被災地の会員の被害の続出。山崩れ、河川の氾濫による住居、田畑の流失、ライフラインの崩壊等、環境がすっかり変わり荒れ果てた状態になりました。地域社会を支える一役を担ってきた、シルバー人材センターも、最大のピンチに立たされました。

「ピンチをチャンスに変えよう」人の心が変わる機会ととらえました。逆境に耐え得る、一人の力の限界を知り、真の共助・共働を実践する。一日一日の大切さを実感し、一歩ずつ前へ進む。ワンコインの精神（誠心）で。

平成29年度の当初予算を策定した際の主目標は、「市補助金の削減額(2,130千円)を埋め合わせするための「事務管理費の徹底的削減」「コストカット」、「事務機能を一本化することによる消耗品の削減の更なる徹底」でした。

29年度には、事務諸経費の厳しいまでの削減の効果と派遣事業の成果で、経常赤字から、黒字に転換することができました。

会員減少もわずかずつにはなってきました。加齢による気力・体力の衰え、自動車やバイク運転をやめることなどが、退会理由の主要因になっています。派遣事業を伸ばすべく今後もこの分野の講習会、人材育成に鋭意努力する所存です。

年度当初に掲げた事業計画の実施状況は、次のとおりです。

1. 【会員開発特別委員会】の準備

『九州北部豪雨』による大災害を蒙ったためにできませんでした。委員会の構成員

となる、理事、地域班長、職群班長、事務局員による組織全体の立ち上げをしましたが、被災状況の甚大さを鑑みて、本年度は断念しました。

2. 会員による、【シルバーライフ体験発表】の機会

安全大会や地域懇談会の機会と場を活用して、話す、聞く、話し合いの相互交流を図り、会員同士の意思疎通や伝え合いの態度形成も図ろうとしましたが、これまた会員主体の発表の場を企画するまでには、いたりませんでした。主催者側や事務局の意識改革、運営面の改善も望まれるところです。

3. 【シルバー祭り】は、開催できませんでした。29年度は、準備段階として、企画案作成、そのための資料収集、原案作成を行いました。朝倉市の市民祭りを初め、共生・男女平等参画・幼児高齢者交流・障害者との交流などのできる活動を企画し、各種祭りに参加します。

4. 就業中には、就業場所で目立つ所に【安全就業の黄色の旗】(幟) 当シルバー人材センターのPRも兼ねて、を立てるようにしました。

5. 大幅な【予算削減】に努めました。【収支損益決算】では、黒字になりました。

さらに、シルバー事業の最優先として全会員・全職員一丸となって取り組まねばならない安全就業対策。事故0(ゼロ)を目指してきましたが、残念ながら、29年度は、12件の事故が発生しました。

—事業実施結果—

I. 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業、社会参加のための支援(公益目的事業)

1. 就業開拓提供等事業

(1) 受託事業(一般)

- 地域に根差した就業機会の提供、また事業を効率的に進めることで就業機会の拡大ができるよう、班編成、リーダー育成を積極的に行い、会員主導で見積、就業、報告という流れを確立しました。

受託事業(一般)実績

就業実人員	就業延人員	就業率	契約金額
348人	29,785人	84.9%	175,490,205円

(2) 受託事業(業務委託)

- 市より朝倉市川の駅原鶴の施設管理業務受託の最終年度。この施設を高齢者の就業機会拡大の場として、また交流人口の拡大、住民や利用者の健康増進に貢献し事業の推進に努めてまいりましたが、7月5日の九州北部豪雨の被害により、当日より閉鎖に追い込まれ、目的を達制することができませんでした。

受託事業(業務委託)実績

就業実人員	就業延実人員	就業率	契約金額
8人	464人	100%	1,842,892円

(3) 独自事業

- 高齢者の知識、経験、能力を生かし、地域社会へ多種多様なサービスを提供するため独自の創意と工夫により事業の推進に努めました。

毎月、センター事務所、地域コミュニティや商業施設の広場で、家庭で使用されている、はさみ・包丁・剪定鋏等の刃物研ぎ出張サービス、石焼き芋甘木絞り展示即売会、女性委員会による小物販売等に努めました。

独自事業実績

就業実人員	就業延実人員	就業率	契約金額
33人	897人	100%	2,569,111円

II. 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業、(公益目的事業)

(1) 職業紹介事業

○ 連合会の職業紹介の事務所として、センター事務所内に連合会朝倉市実施事務所を置き「臨時的かつ短期的な仕事又はその他の軽易な業務」に係る仕事の求人を受付、就業を希望する高齢者に対して必要な情報提供・相談・助言等を行い有料の職業紹介事業を実施しているが、

(2) 派遣事業

○ 派遣事業については、派遣紛い事業を派遣に切り替えると共に、新規企業を開拓した結果件数で2件、契約金額で1,251千円の増額となりました。

派遣事業 実績

就業実人員	就業延人員	就業率	契約金額
100人	7,920人	57.0%	49,342,915円

III. 高齢者の就業機会の確保や社会参加活動を発展・拡充するための普及啓発、情報提供、研修・講習、相談・助言等 (公益目的事業)

(1) 普及啓発事業

ア. 広報活動

○ 広報誌「シルバーあさくら」の紙面を、年3回発行。市内全世帯に配布し、センター事業の普及啓発に努めました。

○ 企業・団体の広告欄を設けるとともに、賛助会員の新規加入を募りました。

○ ホームページに写真を多く入れたビジュアルな事業報告や紹介を行いました。

イ. 社会参加活動

○ 年2回、本所、各出張所管内で公共施設の美化、清掃等のボランティア活動を予定していましたが、九州北部豪雨と荒天の為に中止致しました。併せてPR活動に努めました。

ウ. 地域交流活動

○ 女性委員会「たんぽぽ会」中心となり、朝倉市民まつり、ひまわりフェア(道の駅原鶴)に参加して、女性会員募集の普及活動運動を実施しました。また、「籠作り」・「編み物教室」を開催しました。

○ 一般市民を対象に、伝統工芸の一つである甘木絞りの藍染技術の伝承及び、展示即売会を開催しました。

(2) 安全・適正就業推進事業

ア. 安全就業推進

- 事故0（ゼロ）が全員の願い。願いをかなえるためには、一人一人が安全・点検・確認を怠ってはなりません。「安全はすべてに優先する」意識のもと真剣に就業に努めました。
- 「高所作業の禁止」を徹底しました。
- 安全委員会による毎月の就業現場の「安全パトロール」を実施し、現場での指導、安全強化、事故防止に努めました。
- 「安全就業促進大会」や「交通安全教室」を開催し、会員の安全意識の高揚に努めました。また、会員の出席率の向上を図るべく、会員カードを作成し、就業意識と同じくらいに参加意欲を高める手立てを講じました。

「事故発生状況」	☆傷害事故	6件（前年比 +1件）
	☆賠償事故	6件（前年比 +2件）

イ. 適正就業の推進

- 公平で適正な就業機会の提供を図るために、長期就業の是正、運転業務の年齢制限の規定を改善し、「ワークシェアリング」（仕事の分かち合い）を進めました。

(3) 相談事業

ア. 就業相談の実施

- 未就業者の会員さんには、派遣等を含み、希望職種を聞き随時対応した。

イ. 入会説明会の開催

- 入会を希望する高齢者を対象に、随時（基本毎月第3木曜日）入会説明会を実施しました。

(4) 研修・講習事業

- 職群班を中心に、講習会・実技指導等を実施し、技能・技術の向上を図り、また安全作業の確保に努めました。
- 今後も各種講習会や研修会に積極的に参加し、会員自ら資質の向上を図ることが必要だと考えます。

(5) 組織の活性化と運営体制・財政基盤の強化

ア. 理事会、地域班長会、専門委員会等の連携・強化

- 理事・会員・事務局が一体となる組織運営の改善と行動の活性化に努めました。

- 地域班長、職群班長を主体に事務の一元化について会議を開催した。
- 「現場の主人公は、会員である。」よって、会員主導による業務運営のさらなる日常化を図りました。

イ. 事務事業一元化

- 懸案事項の事務事業一元化問題は、甘木本所に集約すべく職員の配置転換を行い進めております。

ウ. 安定した財政運営の推進

- 増える事業量、受注業務から就業会員への現場案内、見積書の作成指導、現場写真撮り等、市補助金削減に伴い職員の削減を余儀なくされています。よって、人件費の抑制のために会員活用を継続しました。
- 会員の増加、会員の組織力強化に努め、役職員・事務局員・会員が一丸となって事業に取り組み、組織機能の活性化を図りました。
- 補助金については、補助金削減額分をどのように補うか、事業収益を上げるための実働と3事務所統合を視野に入れた事務機能の一本化と諸経費削減を図りました。

今後も、シルバー人材センターの基本理念、朝倉市シルバー人材センターの事目標に基づき、「公益社団法人」としてふさわしい事業展開を図りながら、事業収益アップと会員の加入確保に取り組んでまいります。

また、会員の皆様のご理解とご協力を得て、当シルバー人材センターの一層の発展を図ってまいります。